

井上さちこ通信

みなさまと一緒に歩みます 2025 (令和7) 新春号 / 討議資料

井上さちこ応援団： 廿日市市福面 3-14-14

Eメール:luckey@network.email.ne.jp HP <https://www.inoue-sachiko.com/>



9年前から毎週月曜日に阿品台交差点で、挨拶運動をしています。

井上さち子さんを応援します (春日キスヨ)



プロフィール
福祉学者、社会学者
専門は家族問題

市政を担う議員の大事な資質とは何でしょうか。嘘をつかず「信頼」でき、地域住民の日々の暮らしに精通し、大所高所からの判断力があること。井上さんこそ、そうした力の持ち主だと思います。井上さんは「弱者の視点」「税金を大切に使う」をモットーに、長年の議員活動のなかで老弱男女を問わず多くの人とつながり、その話に耳を傾け、多元的な視点に立ち、子育て・教育環境の整備、高齢者や障がい者の生活・介護支援、地域道路等生活環境の整備、等々、数多くの政策課題を立ち上げ提言し、それを実現してきた人です。こうした井上さんの力は、超高齢・少子化、格差社会の拡大、気候変動による災害の多発で生活の厳しさが増していくことが予測されるこれからの時代、さらに必要なものと考えます。

2025 (令7) 年団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となります！

～在宅を支える

ホームヘルパー制度の充実を目指します～

- 「過疎地域の宮島・吉和の介護施設にお勤めの方には、特別な手当てを出して、人材の確保を」と一般質問し、年間10万円の「介護人材確保・定着補助金制度」の創設が実現しました。
- 毎年9月の老人福祉月間には「廿日市市介護予防・生活支援員の養成研修」の成果を質問し、在宅を支える介護職員の確保をチェックしています。





一
ラ
校
を
こ



～県立佐伯高校の存続について一早く

一般質問し、廿日市市の支援を実現しました～

2011(平成23)年度から4年連続で定員割れが続いていた佐伯高校は、県教育委員会の方針で2016(平成28)年から3年間で活性化策を進め、その後も2年続けて定員を大きく下回る場合は統廃合を含めた再編を検討するという瀬戸際に追い込まれていました。2014(平成26)年6月議会で井上さちこは、吉和・佐伯地域の子どものためにも、また子育て世代の流出を防ぐためにも、県立とはいいいながら、市は本気で佐伯高校の存続に向けた支援を行うべきで、生徒の全国募集の実施をと提言しました。更に下宿先の確保と下宿受け入れ宅のふろ場・トイレなどの補修費などの支援も提言し、実現しました。

その後佐伯高校を守っていく地元の後援会組織が活発に活動され、その上、女子硬式野球部やアーチェリー部、「総合的な探求の時間」(SAEKI QUEST)など魅力的なクラブ活動が、佐伯高校が定員割れを抜け出す原動力となりました。

はつかいち図書館で借りた本を、近くの市民センターでも返せるようにしました！

予算委員会で何度も質疑し2020(令和2)年11月から

- ①移動図書館車たんぽぽ号の巡回先の市民センター・支所(四季が丘・宮園・原・大野東・吉和市民センター、宮島支所)で、
- ②巡回日時以外では「はつかいち市民図書館、大野図書館、さいき図書館、移動図書館車たんぽぽ号)」の本の返却と、予約本の受け渡しが可能になりました。

過疎地域や中山間地域のガソリンスタンド問題に取り組んでいます。

2030(令和12)年を目指して電気自動車への切り替えが進む今、農業機械用のガソリンや暖房用の灯油など車の用途以外の需要が多いのが地域のガソリンスタンドです。吉和と宮島でも1軒になりました。佐伯、大野地域でもガソリンスタンドが減っています。ガソリンスタンドは個人の店の問題ではなく、地域の暮らしを支えるところという意識を、市役所が持つように、先進地事例を提言しています。

誰もが安心して、妊娠・出産・子育てができるよう、身近な場所で見守り、サポートする体制(ネウボラ)の取入れについて、いち早く一般質問し、実現しました！

井上さちこは、暮らしの困りごとを一緒に考え、活動します。

井上さちこの提言

- ①佐伯や吉和には、アーチェリーランドや乗馬クラブといった、県内でも有数のクラブがあります。これらのクラブを観光資源として活かす施策を提言します。
- ②観光農園の魅力を大いに発信する施策を提言します。
- ③佐伯総合スポーツ公園を活用した、高校合宿の誘致などを提言します。